

柏原市議会議員

ムダのない、かしこく活力のある柏原市を作りたい、めざすのはスマートシティ柏原

山口ゆか

柏原力UP ↑

Vol.3
H26.12

活動報告

日頃の活動報告はブログ・Facebook で配信中

山口ゆか

検索

人事院勧告により職員の給料アップに伴ない議員のボーナスも

傾斜配分って？

公務員給与の職務段階等に応じ、係長級以上の手当額算定の基礎額に加算するもので管理職を対象することから「役職加算」部長・課長など役職ごとに加算率が異なることから「傾斜配分」と言われている。そして、議員のボーナスにもこの傾斜配分が乗じられている。

反対の意思を表明

「動議」をかけ議長に簡易採決から起立による採決を申し出たが受け入れられず当初のまま簡易採決となり、反対の意思を表明することができないため、採決には退席した。

議員の歳費UP!?!?

今年12月の議員のボーナス（期末手当に勤勉手当を含む）の支給月数が公務員給与に準じて3.95ヶ月から4.10ヶ月に引き上げられた。非常勤である議員にも勤勉手当があることに疑問。

今後も議会改革
(議員報酬・定数削減その他)
を訴え続けます!

今年はおとくに地方議員の政務活動費の使い方についてさまざまなメディアで取り上げられ、私にもたくさんの質問が寄せられました。柏原市の政務活動費は1ヶ月に4万円、会派（新風かしわら）に一括して支給されます。使途については会派で話し合っていては、使ったものに対しては領収書を提出していません。

この度、人事院は国家公務員の給与について勧告し、地方公務員も準じて給与が上がります。管理職や議員も同じように上がることになりましたが、私はどうしてもその決まりごとに納得することができず悩みに悩みぬいて、議会運営委員会を終えた最終日の本会議に「**動議をかけ、簡易採決から起立採決への変更をお願いいたしました。**しかし、議会運営委員会の決定が最高機関であることから**動議は認められなかった**ため、採決には参加せず退席するに至りました。

ボーナスアップについては会派で政務活動費として使途明細も公開していきます。そして引き続き、議会改革に向け精進してまいります。次は3月議会で議員報酬について提案していく所存です。ご支援のほど宜しくお願いいたします。

ごあいさつ

議員生活1年3ヶ月が経過しました。いつも市民の皆さまにお声をかけていただき感謝いたします。皆さまのご支援、ご協力のもと、日々議員活動をさせていただいております。

12月議会で3回目の個人質問を終えましたのでこちらでご報告いたします。今回は財政から始まり商工業の活性化、出生率向上、女性人口流入までを一連の流れで質問し、最後に母親目線で中学校給食のその後の調査についてを伺いました。柏原市の財政はまだ厳しい状況であるからこそ、商工業を活性化させ税収を上げる、また人口を増加させて市税アップにつなげるため、さまざまな角度から政策を提案しました。

平成27年も皆さまの声を市政に届けるため邁進してまいりますので、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。



議会の動画は

<http://www.gikai-web.jp/dvl-kashiwara/2.html>

山口ゆか 平成26年の取組

いじめ問題対策連絡協議会条例（6月総務文教委員会）

いじめは大人の目につかないところで行われていることが多い。加害者や被害者は親や教師には事実を言わない可能性が高いけれど、**周りの子は自分の親に話すかもしれない。その声を親が届ける仕組みづくり**を行政が担い、いじめのないまちをめざしていくことを提案した。

中学校部活動（3月議会、9月議会）

部活動に対して3月議会から要望してきた。27年4月に入学する1年生に対して指定校以外にも通学できるようになったが、**小中一貫教育の校区整備**を行うなど、大きな視点で考えていく必要があると感じる。子どもたちひとりひとりにとってかけがえのない学校生活を送れるよう要望。

自殺対策（3月市民福祉委員会）

学校での教育について質問。単発的な教育ではなく、発達段階に応じて命の尊さ、他者を思いやる気持ちを長期的に育てていくものであり、教育と福祉が連携して**子どもたちに命の大切さ**を教えていくことを提案した。

情報政策（3月総務文教委員会、11月決算特別委員会）

本市ではwindowsXPが数多く存在しておりウイルス対策ソフトで更新で対くとのことだが応じてサポートが終了してから危険を伴いながら使用継続するのではなく、前もって基金や積立をしておき**一括して更新できる体制づくり**を提案。

スタディ・アフター・スクール（3月総務文教委員会）

学校の授業以外に放課後の時間を活用して、補習や補充的な学習ができる環境は大変貴重であるとする。今後ともきめ細かい学習支援を。

平成26年12月議会報告

山口ゆか 5つの個人質問

① 柏原市の財政状況と課題について

山口 長い不景気の中、柏原市にも少なからず影響を及ぼしておりいろいろと対策をとってこられたと思うが、財政状況と課題について伺う。

部長 歳入の確保や、歳出の削減で健全な財政運営に努めてきた。国民健康保険事業会計、病院事業会計ともに赤字。さらなる経費の削減や事業の廃止・縮小・統合も含め、今後も財政の健全化に努めてまいりたい。



山口 独自のプライマリーバランスを出しグラフにした。近年は安定しているようにも見えるが地方交付金が増えた影響が大きく今後も税金は下がっており厳しくなるのではと考える。少子高齢化などでますます増えていく経費や様々な市民ニーズも出てくると思われるが、どう対応していくのか考えを伺う。



部長 社会保障費など削減困難な経費はさらに増加傾向、病院事業も資金不足の増加で課題が山積み。しかし新たな市民ニーズへの対応も必要となるため、さらなる経費の見直し、施設のあり方を検討、事業の廃止や統合を行い予算の重点配分で乗り切ってまいりたい。

提案 経費の削減や資産の切り売りだけでは未来の柏原市は小規模な自治体になってしまい、**市民サービスの低下**など懸念する。人口増加や産業を活性化することで税金アップにつなげていく努力もあわせて必要。**自主財源**を増やしていくためにも**人口増加、産業の活性化**の政策をとって自主財源を増やしていただくことを提案する。

② 商工業の活性化とPRについて

山口 健全な財政運営において税金を増やすことは重要であり、商工業の発展が課題であると考えますが商工業の活性化とPRについて取組を伺う。

部長 商工会を通じてさまざまなイベントに取り組み、工業についても企業間取引の推進のための出展支援等を行い、柏原産（もん）を物産販売してPRに努めている。

山口 市内にはイベントに参加されていない商店や事業者がまだまだあり、**行政の導きが必要**であると考えますが、現状の把握についての見解を伺う。

部長 市内には2400の商店や事業所があり実態調査の必要性を感じている。商工業の特徴などサイトで発信していきたい。関係機関と検討、協議しているところ。



要望 商工業の発展が**雇用創出**や**定住人口の増加**につながる。前向きに取り組んでいただきたい。財政面での積極的なバックアップもあわせて要望する。

その他提案してきたこと一部抜粋

- 3月議会
 - PM2.5 注意喚起
 - 放置自転車対策 → 玄関口の駅前をおしゃれに
 - 青少年野外活動の支援 → かしっこキャンプ実施、大成功
- 6月議会
 - 新電力（PPS）の導入 → 制度改革の先取りを提案
 - 保育コンシェルジュの提案 → ママプラスという名前で事業開始！
- 9月議会
 - こども公園の整備 → 子どもだけが遊べる空間
 - 防災教育 → 10年、20年後の防災リーダー
- 11月決算委員会
 - 消費者センターの設立
- 12月議会
 - 市民病院、産科の充実



1年が経ち
複数の提案が実現

発行・編集 山口ゆか後援会事務所

〒582-0005 柏原市法善寺2丁目3-23 TEL 072-921-7430

③ 出生率と子育て政策の相関について

山口 本市の出産に対する支援と子育てに関する支援の取組、過去10年間の出生率と児童福祉費を伺う。



部長 妊娠から出産まで切れ目のない支援をしている。妊婦健診、子ども医療費助成、公立保育所の民営化で待機児童の解消、一時預かり・一時保育等の子育て支援事業を行っている。しかし、柏原の出生率は全国平均を下回り、児童福祉費は10年前と比べ7億円強増えている。

提案 児童福祉費が増えている一方、このグラフを見れば出生率は横ばいで**相関関係にない**ことがわかる。出生率向上政策が必要である。提案として新婚家賃補助や多産の方への報奨的補助などの支援などいかがか。

部長 実施している自治体の状況や成果を研究していくが、まとまった財源が必要となるため事業の選択と集中の観点から優先度や緊急性を考慮して検討していく。

山口 **出生率向上施策と子育て施策を両輪**にバランスの良い政策で子育て世代の人口流入、人口増加につないでいただきたい。財政の後押しも必要である。

④ 女性に焦点をあてた人口増加施策について

山口 国政では女性の社会進出が推進されており、柏原市においても女性に焦点をあてた政策を推進していく必要性を感じる。女性の人口増加施策について伺う。

部長 子育て世代の定住化を図るため子育て支援と教育に力を入れており、女性が活躍できる環境づくりを推進している。



山口 就学中の子どもがいる子育て世代は転校させにくい状況があるため移り住んでもらうのは難しいのでは。出産可能年齢（15歳から45歳）の女性の人口は右のグラフの通り年々減少している。出生率を向上させるにはこの年代の**女性の数が増えない**といけない。市政において女性職員の数はどうか。



部長 一般職は20%、管理職は9% 女性が働きやすい場を考えていく。

山口 **女性ワーキングチーム**を立ち上げ、同年代の声を市政に反映させて魅力あるまちづくりをお願いする。**女性があふれるまち**になれば、女性をターゲットにしたお店や企業が柏原市に集まってくると考える。女性を焦点にしたまちづくりについて市長の考えを伺う。

市長 ハード面を整え、女性をサポートしていく体制をつくっていく。ぜひ、ランドデザインの中に女性に人気の街並みも取り入れていただきたい。**女性目線のまちづくり**を提案した。

⑤ 中学校給食の調査について

山口 6月議会でも質問したが、中学生の成長は著しく量的、時間的な問題に対応するため再度アンケート調査をお願いしたいがいかがか。

部長 大きな問題はないが、春に比べ各学年の残飯量が変わらなくなってきている。運搬配膳等の時間的な問題は継続している。1月に再調査する。



後援会会員を募集しています。ウェブサイト・電話・FAX・メールで随時受付中！

山口由華後援会

〒582-0005 柏原市法善寺 2-3-23
tel. 072-921-7430 fax. 072-926-5077

ウェブサイト
<http://yamaguchiyuka.com>
メールアドレス
info@yamaguchiyuka.com